



※本製品は木造合板捨て張り下地専用です。根太組みへの直接施工、コンクリート下地への直接施工はできません。

●不具合の原因となりますので、下記事項をお守りください。

施工前のお願い

- 施工前に各部材を必ず検品してください。製品に不具合があった場合は、必ず施工前にお買い上げ店までご連絡ください。施工後の色調不具合・キズなどによる交換は、お受けできませんのでご了承ください。
- 水がかかったり、直射日光のあたる場所に置かないでください。ソリ・ねじれなどの原因になります。
- 本製品は、屋内用です。土足で使用する場所や水がかかったり、極端に湿度が高い所には使用できません。濡れた場合は、すぐに乾いた布でふき取り、乾燥させてから養生してください。基材のフクレやソリ・ねじれの原因となります。
- コンクリート下地の上に床下地組み(乾式二重床など)をする場合は、コンクリートの含水率が10%以下となるように乾燥させてください。(ポリシートの四周を布テープ止めにより被覆密閉し、24時間以上放置後シート下のコンクリート面が黒く変色していない程度)突上げやソリ、基材のフクレ、シミや変色、カビが発生する原因になります。
- ※土間暖房、コンクリート埋設型の床暖房など、床下に暖房システムを組込む際は特にご注意ください。
- 床暖房の適合機種に関しては、カタログを参照いただくか、弊社へ問い合わせください。
- 本製品は単板を使用しており、天然木特有の微妙な色柄が持ち味となっています。取付け前に仮並べして色の濃淡、空柄など部分的に片寄らないように合わせてください。
- 張合わせは3尺ずらしのレンガ張りをおすすめします。
- 短辺の接続箇所が隣り合わせになっていると、施工後にフロアのスキ、段違い、床鳴り(踏み鳴り)などの不具合が発生することがあります。
- 床材には防虫処理をしておりません。必要に応じて躯体、木部および床材に防虫処理してください。虫による食害のおそれがあります。
- 木質フロアは、湿度の変化により伸縮する性質があります。フロアと壁廻りの巾木や被せ見切りの下などには、必ず隙間を設けて、伸びを吸収できるようにしてください。

施工上のおお願い

1 下地について

●下地の砂・木くずなどは、きれいに清掃してください。

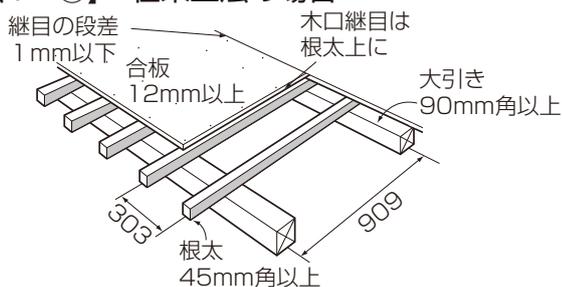
【在来工法(合板捨て張り)の場合】【図1-①】

- 大引きは90mm角以上で間隔は909mm以下、根太は45mm角以上で間隔は303mmとし、含水率15%以下の乾燥したものをお使いください。
- 合板の場合は、厚み12mm以上で、含水率は14%以下のものを使用し、パーティクルボードの場合は、厚み15mm以上で、含水率13%以下のものを使用し、水平で段差のないように施工してください。(段差は1mm以内としてください。)
- 大引き、根太および合板またはパーティクルボードには接着剤を塗布し、ビス等で固定してください。
- 下地材が濡れていたり、含水率が高い状態で床を施工しないでください。水分が床材に移行して突き上げなど不具合の原因になります。
- 捨て張りの継ぎ目は合板で2mm程度、パーティクルボードで4mm程度を目安としてすき間をあけてください。突き合わせにすると床鳴りの原因になります。

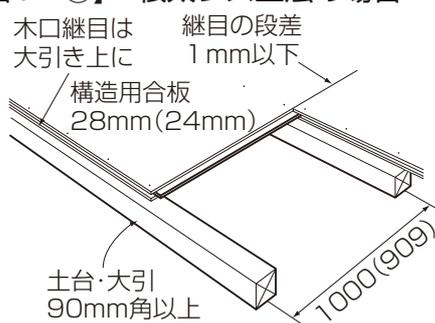
【根太レス工法(構造用合板捨て張り)の場合】【図1-②】

- 大引きのピッチが尺モジュール(909mm)の場合は厚み24mm以上、メーターモジュール(1000mm)の場合は厚み28mm以上の構造用合板を使用してください。
- 含水率は14%以下のものを使用し、水平で段差のないように施工してください。(段差は1mm以内としてください。)
- 大引きおよび合板には接着剤を塗布し、ビス等で固定してください。
- 下地合板が濡れていたり、含水率が高い状態で床を施工しないでください。水分が床材に移行して突き上げなど不具合の原因になります。

【図1-①】 在来工法の場合



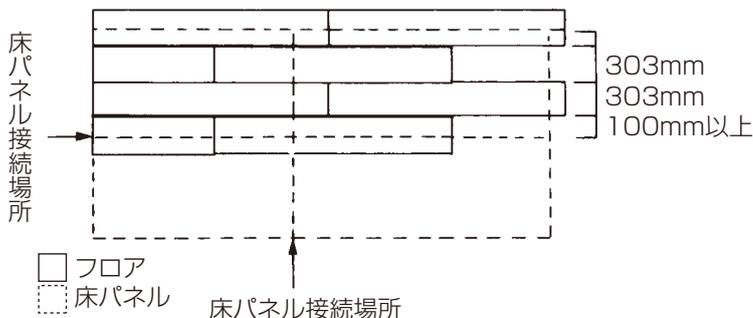
【図1-②】 根太レス工法の場合



2床の固定

- 床材と捨て張り材の継ぎ目は同位置にならないよう、縦・横とも100mm以上ずらしてください。段差の発生や床鳴りの原因になります。
- 1列目に張るフロアは、床パネルとフロアジョイント部分が重ならないように予めカットして施工してください。【図2-①】
- 施工時に、きつくはめ込みすぎないようにご注意ください。(床材は湿度の影響により伸び縮みします。伸縮量は1820mmの長さで約2~3mm程度です。きつくはめ込みすぎると突上げの原因になります。)

【図2-①】



- 床材の固定には接着剤を併用し、フロア専用スクリーナール(38mm以上)またはフロア用ステーブル(38mm以上)で根太位置を狙って打込んでください。(根太レス工法の場合303mmピッチ)床材と捨て張り材のみの固定ではソリ・床鳴りの原因となります。フィニッシュネイルは使用しないでください。サネ割れや固定強度の低下の原因となります。【図2-②】
- 接着剤は、別売りの床施工用接着剤(LZZZZ036)をご使用ください。

【図2-②】



短辺方向の釘：2本

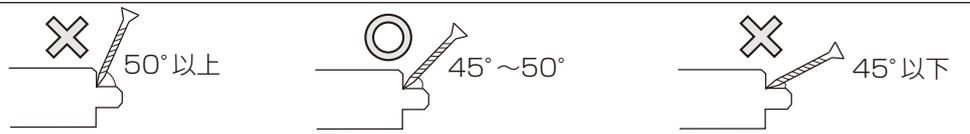
長辺方向の釘：7本(各根太1本)

フロア専用スクリーナール38mm以上またはフロア用ステーブル38mm以上

※フィニッシュネイルやブラッドネイル、普通釘は固定力が弱いので使用しないでください

- 釘を打つ角度は45°~50°で打ってください。釘頭はポンチで沈め打ちしてください。釘打ち角度が低くなると、表面フクレの原因となります。【図-3】
- 釘打ち機を使用する場合は、あらかじめ試し打ちなどでトルク調整を行ってください。

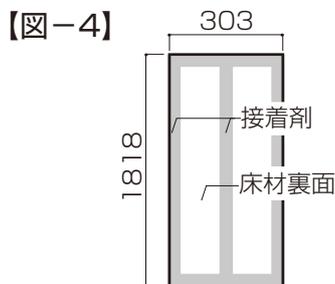
【図-3】



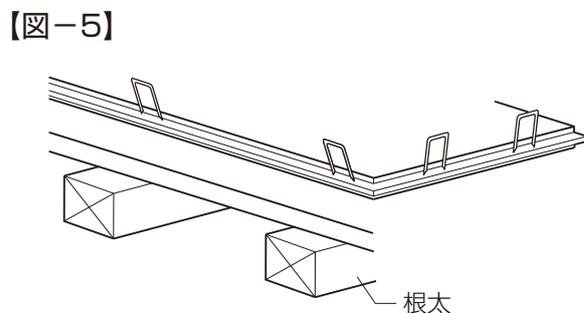
※フロアの雄ザネと雌ザネを合わせる時は必ず「当て木」を添えて軽く叩いてください。

※釘の頭はポンチを使って必ず雄ザネのなかに沈めてください。

- 接着剤は、下図の位置に塗布してください。【図-4】
- 床材のソリや突上げを防ぐため、床材の短辺にも2本、釘打ち施工してください。【図-5】
- 接着剤がはみ出た場合は、石油ベンジンを布にしみ込ませてふき取ってください。硬化すると取れなくなります。
- 床材の切断時はバリの発生を抑えるため切れる刃物で表面側から行ってください。



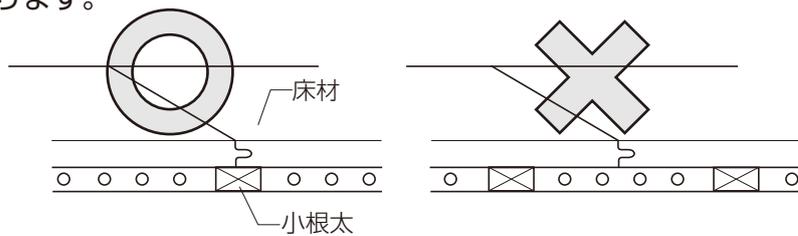
塗布量：床材1枚当たり
150~200g



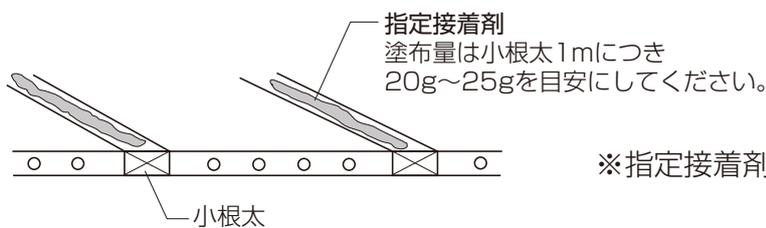
3 床暖房用仕上げ材として使用する場合

①床材の継ぎ目(短辺方向)は必ず小根太上にくるようにして寸法出しをしてください。ずらすと短辺方向に釘が打てなくなります。

※小根太の間隔は1尺(303mm)が基本となります。



②小根太上には指定接着剤を塗布してください。



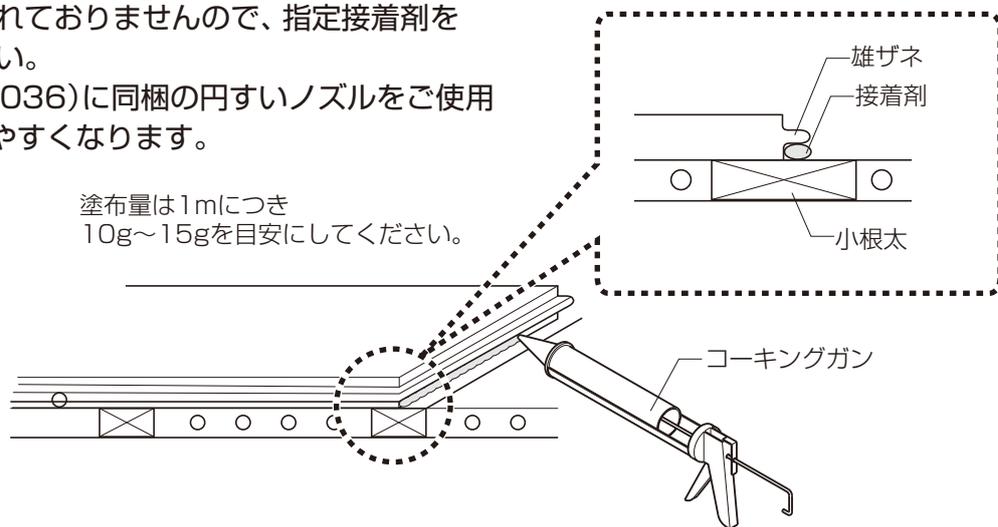
※指定接着剤：床施工用接着剤(LZZZZ036)

③指定接着剤を短辺方向の雄ザネの下部に塗布してください。

※短辺方向に接着剤を塗布しないと目スキ、床鳴りの原因となります。

※サネボンドは同梱されておりませんので、指定接着剤を別途手配してください。

※指定接着剤(LZZZZ036)に同梱の円すいノズルをご使用いただくと、塗布しやすくなります。

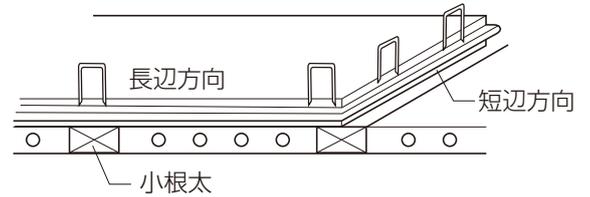


④床材は短辺方向、長辺方向に釘を打って根太に固定してください。(短辺方向2本、長辺方向各根太1本計7本)
特に、短辺方向に釘を打ちませんと目スキの原因になります。

※釘はフロア専用スクリュー釘(38mm以上)またはフロア用ステーブル(38mm以上)をご使用ください。釘を打つ角度は45°~50°が適当です。「根太以外の部分」、小根太付きマットの「小根太以外の部分」、または、その他床暖房システムの「釘打ち禁止部」には釘を打たないでください。

※接着剤が硬化してから、床暖房の運転を開始してください。

- ・短辺方向の釘：2本
- ・長辺方向の釘：7本(各根太1本)
- ・フロア専用スクリュー釘38mm以上またはフロア用ステーブル38mm以上
(フィニッシュネイルは固定強度が低下しますのでおやめください。)



上記施工方法以外の方法で施工された場合の目スキ・床鳴りなどの不具合は、責任を負いかねる場合があります。

施工後のお願い

- 施工後は、木クズ・砂・ゴミを完全に取除き、養生シートやベニヤなどですき間なく養生してください。その際、必ず別売りの養生テープ(LZZZZ004)をご使用ください。市販のガムテープなどは粘着力が強いため、表面材のハガレの原因となります。
- 施工中、雨の吹込みにより、床材の表面が濡れたままになると、フクレやソリの原因になります。濡れたまま放置することはお避けください。
- ワックスがけをしなくても耐久性はありますが、ワックスがけをする場合は、木床用の樹脂系ワックス(リンレイ：ハイテクフローリングコート)をご使用ください。ご使用する際は、直接床にまかずに、布などにしみ込ませて薄くムラなく塗布してください。
- 汚れのひどいときは、固く絞った濡れぞうきんでふくようにしてください。その後、乾いた布でふいてください。
- ワックスはくり剤は使用しないでください。表面材を傷める原因となります。